

製品名: RGS16 (リン酸化Tyr168) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05368**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	30kDa

抗原情報

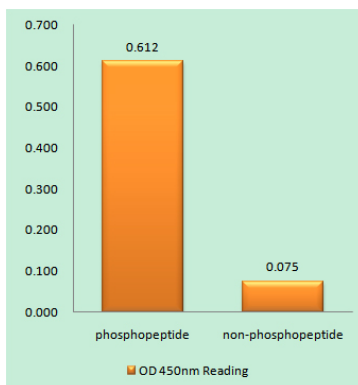
遺伝子名	RGS16
別名	RGS16; RGSR; Regulator of G-protein signaling 16; RGS16; A28-RGS14P; Retinal-specific RGS; RGS-r; hRGS-r; Retinally abundant regulator of G-protein signaling
遺伝子 ID	6004.0
SwissProt ID	O15492
免疫原	抗血清は、ヒト RGS16 の Tyr168 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 141-190

背景

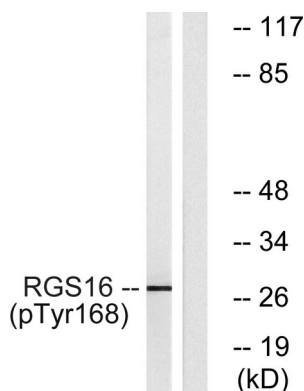
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、「Gタンパク質シグナル伝達調節因子」ファミリーに属します。Gタンパク質αサブユニットのGTPase活性を上昇させることでシグナル伝達を阻害します。また、光情報伝達カスケードにおけるシグナル伝達の実験的制御にも関与している可能性があります。[RefSeq提供、2008年7月],機能: Gタンパク質αサブユニットのGTPase活性を上昇させることでシグナル伝達を阻害し、それらを不活性なGDP結合型へと誘導します。G(i)-αおよびG(o)-αには結合しますが、G(s)-αには結合しません。光情報伝達カスケードにおけるシグナル伝達の実験的制御にも関与している可能性があります。PTM: Cys-2および/またはCys-12がパルミトイル化されています。PTM: EGFR刺激によりTyr-168がリン酸化されます。G(i)-αに対するGTPase促進(GAP)活性が強化されています。類似性:1つのRGSドメインを含みます。組織特異性:網膜に豊富に発現し、他のほとんどの組織では発現レベルが低くなります。、

研究分野

画像データ



RGS16 (リン酸化Tyr168)抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化ELISA)



ヒートショック処理したCOS7細胞ライセートのRGS16 (リン酸化Tyr168)抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。